

第 1 5 回

三重県文化賞受賞者名簿

平成 2 8 年 5 月 2 9 日

三 重 県

第 15 回三重県文化賞 総評

三重県文化賞は、三重県の文化振興に貢献し、その活動や功績が優れた個人・団体（以下「個人等」という）を讃えることにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標になるようにという趣旨で設けられた顕彰制度である。

表彰の体系は、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動と功績が優れ、本県の文化向上に貢献した個人等を対象にしている文化大賞、文化功労賞及び文化奨励賞と、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動で将来一層の向上が期待される個人等（県内在住又は三重県出身者に限る。）を対象にしている文化新人賞からなる。

平成 13 年度の第 1 回表彰から平成 26 年度の第 14 回表彰までの受賞者数は 199 名・団体（以下「名」という。）である。

受賞候補者の推薦は、公募により、自薦、他薦を問わない。

第 15 回目になる今回は、平成 27 年 7 月 17 日から 9 月 16 日まで募集を行ったところ、52 名の方からの推薦があり、受賞候補者は 45 名となった。

【募集結果】

受賞区分	推 薦 数	受賞候補者数
文 化 大 賞	15	12
文化功労賞	9	9
文化奨励賞	14	14
文化新人賞	14	10
計	52	45

※上記のうち、「推薦数」と「受賞候補者数」の件数の相違については、受賞候補者に対し複数名の推薦があったことによるもの。

各賞の受賞者については、三重県文化賞表彰要綱及び三重県文化賞実施要領の規定に基づき、学識経験者、芸術文化関係者等 10 名で構成する第 15 回三重県文化賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）の選考を経て、知事が決定する。

選考委員会では、推薦書、履歴・業績調書、履歴・業績を示す資料を基に、また、必要に応じて内容の確認や追加資料の提出を求め、厳正かつ公正に行った。

選考委員会における各賞の選考過程は次のとおりである。

文化大賞は「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が極めて優れ、三重県の文化の向上に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点から第一次選考を行って2名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った2名は、いずれも活動、功績とも素晴らしく優劣をつけがたいもので、様々な観点から議論を行ったうえで、選考を行い、美術分野（陶芸）の三代 清水醉月さん（本名：清水洋）を選出した。

文化功労賞は「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が優れ、三重県の文化の活性化に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って6名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った6名の活動と功績は優れた水準を維持しており、優劣をつけがたい状況となったが、選考を行い、伝統芸能分野（詩吟）の加藤純一さん（雅号等：龍宗）、伝統芸能分野（能楽）の福田勝さん、美術分野（組紐）の松山好成さんの3名を選出した。

文化奨励賞は「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動により功績を収め、三重県の文化興しに貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って10名に絞り込み、第二次選考を行った。

第二次選考に残った10名の活動水準は高く、意見交換を行い評価が伯仲する状況であったが、選考を行い、美術分野（陶芸）の印藤幸恵さん、文学分野（俳句）の坂口緑志さん、写真分野（写真）の田邊三郎さん、伝統芸能分野（箏曲）の中井智弥さん、美術分野（絵画）の安田隆亮さんの5名を選出した。

文化新人賞は「県内在住者又は三重県出身者で、芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動で、将来一層の向上が期待される個人等」に授与するものである。

第一次選考では候補者全員を第二次選考の対象として第二次選考を行うこととした。候補者の年齢層は10代から70代までと幅広く、活動は短期間だが業績はめざましく、それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考を行い、写真分野（写真）の牛場寿子さん、その他分野（木工）の大形弥生さん、伝統芸能分野（津軽三味線）の駒田早代さん、写真分野（写真）の野瀬みつ子さん、文学分野（俳句）の平野透さんの5名を選出した。

委員長としては、選考委員会の皆さんの厳正かつ公正な判断のもとに、各賞とも素晴らしい方々を選出することができたと考えている。受賞され

た皆様におかれては、今後ますますのご活躍と、三重県の文化レベルの一層の向上に寄与していただくことを期待したい。

今回の受賞候補者を分野別で見ると文学分野 4 名、美術分野 11 名、音楽分野 7 名、演劇・舞踊分野 4 名、写真分野 4 名、メディア芸術分野 1 名、伝統芸能分野 9 名、生活文化分野 1 名、学術分野 1 名、その他の分野 3 名であった。美術分野、伝統芸能分野での推薦が多く、これらの分野で活躍される方々の層の厚さが窺われるなか、他の分野の候補者の活動実績と功績についても高い水準を維持しており、今後に期待ができる。

また、近年、推薦がほとんどなかった写真分野やメディア芸術分野からの推薦があり、文化功労賞等に受賞者があったことは特筆できる。今後、さらに幅広い分野からより多くの推薦をいただくよう期待する。

地域別にみると、これまで東紀州地域からの受賞候補者が少ない傾向にあったが、今回は 8 名の推薦があった。県内各地には三重県文化賞に相応しい優れた方々が活躍していると思われるので、さらなる積極的な掘り起しが必要である。

第 16 回以降は、より多くの、そして、より多才な文化活動に携わっている方々の成果が多く推薦されることを願う。

最後に、三重県の文化の向上に寄与するため、三重県文化賞が権威ある賞として発展し、県民から評価を受け、文化活動に携わる者の志をかきたてられるようになれば、三重県の文化活動の活性化と向上に寄与する礎となる可能性を秘めている。そのためにも三重県文化賞の意義をより明快に県民に認知していただけるよう広報をさらに充実することで、幅広い分野や多くの地域の方々からの積極的な応募につながることを切に願う次第である。

第 15 回三重県文化賞選考委員会

委員長 辻本 當

(受賞候補者名は各賞五十音順)

第15回三重県文化賞受賞者

(受 賞 者 名)	(住 所)	(活 動 分 野)
〔文化大賞〕		
三代 清水 醉月 (72 歳) (本名：清水 洋)	四日市市	美術分
〔文化功労賞〕		
加藤 純一 (71 歳) (雅号等：龍宗)	津市	伝統芸
福田 勝 (73 歳)	松阪市	伝統芸
松山 好成 (70 歳)	名張市	美術分
〔文化奨励賞〕		
印藤 幸恵 (68 歳)	大台町	美術分
坂口 緑志 (67 歳)	伊勢市	文学分
田邊 三郎 (66 歳)	津市	写真分
中井 智弥 (37 歳)	津市	伝統芸
安田 隆亮 (75 歳)	桑名市	美術分
〔文化新人賞〕		
牛場 寿子 (68 歳)	津市	写真分
大形 弥生 (30 歳)	尾鷲市	その他
駒田 早代 (16 歳)	津市	伝統芸
野瀬 みつ子 (58 歳)	松阪市	写真分
平野 透 (78 歳)	四日市市	文学分

(各賞五十音順、年齢は平成28)

賞別 文化大賞 活動分野等 美術分野（陶芸）

名 前	住 所	受 賞 理 由
さんだい しみず すいげつ 三代 清水 酔月 しみず ひろし (本名：清水 洋) (72 歳)	四日市市	氏は、昭和 35 年に作陶を開始して以来、現在に至るまでの永きにわたり、本県を代表する伝統工芸である四日市萬古焼の研究を重ね、技術の向上と伝承に尽力している。 高校在学中の昭和 35 年に現代日本陶芸展で初入選し、以降、朝日陶芸展、日本伝統工芸展、中日国際陶芸展などで多数の入選・入賞を果たすなど、高く評価されている。 作風は、これまでの萬古焼の特徴である「紫泥（しでい）」の土を使い、伝統的製法による高品質な作成技法に加え、細かな砂を高圧で吹き付けて作品に模様を刻む独自のサンドブラスト技法に巡りあい、確かなろくろ技術に裏打ちされた柔らかな味のある模様のハーモニーが芸術性を高めている。 また、昭和 60 年の日本工芸会東海支部幹事就任以降、伝統工芸三重研究会会長、三重県陶芸作家協会会長等を歴任し、陶芸はもとより伝統工芸全般の振興、後進の育成に大きく尽力している。 氏のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。

賞別 文化功労賞 活動分野等 伝統芸能分野（詩吟）

名 前	住 所	受 賞 理 由
かとう じゅんいち 加藤 純一 りゅうそう (雅号等：龍 宗) (71 歳)	津市	氏は、現在に至るまでの永きにわたり、礼と節を重んじる吟道の伝承に尽力している。 昭和 50 年に「日本吟道学院水心会」を設立し、津市や鈴鹿市、伊勢市等の保育所や高齢者施設などで、俳句、現代詩、歌謡吟、漢詩等を、より音楽的かつ芸術的にわかりやすい指導を行うなど、吟道の普及に努めている。 こうした長年の活動が高く評価され、平成 26 年に「津市文化功労賞」を受賞している。 また、平成元年に伊勢神宮吟詩舞奉納団理事長に就任して以来、毎年、神宮内にて全国吟舞道大会を開催するとともに、中国、モンゴル等で吟舞表演を行い、詩吟をとおして海外との文化交流に取り組むなど、国内外で吟道の発展に貢献している。 主な著書として、「歌謡吟詠集」、「古事記を詠う」、「奥の細道吟詠集」、「百人一首吟詠集」などを出版している。 氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。

賞別 文化功労賞 活動分野等 伝統芸能分野(能楽)

名 前	住 所	受 賞 理 由
ふくだ まさる 福田 勝 (73 歳)	松阪市	氏は、能楽五流派の一つである喜多流に入門して以来、現在に至るまでの永きにわたり、芸の向上、充実に励み、国民文化祭をはじめ、全国各地の能楽舞台に数多く出演するなど、精力的に活動し、能楽の普及振興に尽力している。 また、中世の伊勢三座のうち二つの座の本拠地であった松阪市で、昭和 63 年から平成 25 年まで開催された「松阪薪能」の中心的役割を果たすとともに、県内外の小中学生をはじめとする子どもたちのための能、狂言教室において熱心な指導を行うなど、次世代の育成に取り組んできた。 氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。

賞別 文化功労賞 活動分野等 美術分野（組紐）

名 前	住 所	受 賞 理 由
まつやま よしなり 松山 好成 (70 歳)	名張市	氏は、家業の組紐製造を継いで以来、現在に至るまでの永きにわたり、芸術性の高い組紐制作分野の第一人者として、技術の向上と伝承に尽力している。 平成 5 年に東海伝統工芸展に入選し、以降、日本伝統工芸染織展、日本伝統工芸展などで多数の入選、入賞を果たすなど、高く評価されている。 作風は、草木染による穏やかな美しい色合いを基調としながらも、力強い糸の組み上げによって、「凜とした」清潔感を醸し出しており、平成 26 年には皇室関係行事（歌会始）で紐作成を任されるなど、高い芸術性が評価されている。 平成 8 年には「伊賀くみひも」伝統工芸士に認定され、平成 22 年には伊賀組紐伝統工芸士会副会長に就任するなど、組紐の振興に寄与している。 また、平成 14 年「伝統工芸三重研究会」設立時に理事に就任して以降、組織の運営と会員の技能向上に努め、同研究会から多くの受賞者を輩出するなど後進の育成に尽力している。 氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。

賞別 文化奨励賞 活動分野等 美術分野（陶芸）

名 前	住 所	受 賞 理 由
いんとう ゆきえ 印藤 幸恵 (68 歳)	大台町	氏は、愛知県で陶芸を始めた後、平成 13 年には大台町に移住し、陶房「幸翔窯」において、創作活動を行っている。 平成 11 年に「国際アマチュア陶芸展伊万里 “99」特別賞、平成 18 年に「東海伝統工芸展」入選、平成 24 年に「日本伝統工芸展」入選など多くの受賞歴を有し、高く評価されている。 氏の作風は、「練り上げ」技法により形作る独特のもので、オリジナルの絵柄にも特色があり、平成 25 年には「松阪もめん」に魅せられ、その魅力を全国に伝えたいと藍色と縞模様を表現した作品を焼き上げることに成功し注目されている。 また、陶房「幸翔窯」をまちかど博物館として公開するなど、地域の活性化の一翼を担うとともに、大台町、明和町で陶芸講座を開催するほか、地元の小学校等に出向いて陶芸指導を行うなど、人材の育成に努めている。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別 文化奨励賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
さかぐち りよくし 坂口 緑志 (67 歳)	伊勢市	氏は、昭和 46 年、俳句結社「年輪」に入会して以来、現在に至るまでの永きにわたり、俳句の創作活動を行っている。 昭和 60 年に「深雪」新人賞、平成 3 年に「三重県文学新人賞」、平成 22 年に「三重県俳句協会」年間賞など数多くの受賞歴を有し、高く評価されている。 氏の作風は、俳句のより高い境地をめざし、郷土伊勢を大切にした作品を志している。 平成 8 年に「深雪」主宰、その後、「教育文芸みえ」編集委員、「俳人協会三重県支部」副支部長、「年輪」代表、「俳祖守武翁顕彰会」会長などを歴任し、俳句の普及に努めている。 また、椿大神社短詩形文学献詠祭や各地の俳句大会の選者を務め、地域に根ざした活動を展開している。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別 文化奨励賞 活動分野等 写真分野（写真）

名 前	住 所	受 賞 理 由
たなべ さぶろう 田邊 三郎 (66 歳)	津市	氏は、昭和 47 年に写真活動を開始して以来、昭和 49 年に「三重県展」最優秀賞、昭和 50 年に「二科会写真部展」特選、平成 17 年には同展奨励賞を受賞するなど、高く評価されている。 氏の作風は、自然環境の中で生きる動物たちの逞しさや、人と動物たちの関わりをテーマに撮影し、平成 25 年には写真集「いきものかたり」を出版する。 また、「津市美術展」実行委員、鈴鹿市、松阪市等の美術展の審査委員をはじめ、全日本写真連盟三重県本部委員、同連盟中部本部委員、二科会写真部三重支部支部長等を歴任し、後進の育成と指導の一翼を担っている。 氏はこうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別 文化奨励賞 活動分野等 伝統芸能分野（箏曲）

名 前	住 所	受 賞 理 由
なかい ともや 中井 智弥 (37 歳)	津市	氏は、箏曲演奏家として活動を始め、古典的な箏曲の演奏にとどまらず、音域の広い二十五弦箏奏者の第一人者として活動している。 平成 15 年には「宮城道雄記念コンクール」3 位、「賢順記念全国箏曲コンクール」2 位など数多くの受賞歴を有し、高く評価されている。 平成 17 年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と共演して以降、雅楽、津軽三味線、ヴァイオリンなど他のジャンルとのコラボレーションを積極的に展開している。また、平成 19 年以降、フィンランド、メキシコ、チリなど数多くの国で、「能」等を題材とした巡回公演を行うなど、国内外で箏曲の普及に努めている。 また、地元三重県でも、小中学校や文化施設等で巡回公演を行うほか、地域のイベントに出演するなど、精力的に演奏活動を行い、伝統芸能の普及とともに、地域活性化の一翼を担っている。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別 文化奨励賞 活動分野等 美術分野（絵画）

名 前	住 所	受 賞 理 由
やすだ たかあき 安田 隆亮 (75 歳)	桑名市	氏は、現在に至るまでの永きにわたり、絵画活動を行い、昭和 59 年に絵画公募団体二元会主催の「二元展」に初出品して以降、平成 8 年に同展文部大臣奨励賞、平成 27 年に「第 9 回モナコ・日本芸術祭 2015」モナコの薔薇（ローズ・ドゥ・モナコ）賞を受賞するなど、多くの受賞歴を有し、国内外で高く評価されている。 平成 17 年に桑名美術クラブ会長に就任し、地域の公民館等でデッサン会や絵画教室の講師を務めるほか、平成 14 年から二元会の常任委員や審査員を務めるなど、絵画の普及に努めている。 さらに、平成 12 年から日本と韓国で交互に美術展を開催する日韓友好親善美術展の副会長を務め、絵画をとおした日韓の文化交流の一翼を担っている。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別 文化新人賞 活動分野等 写真分野（写真）

名 前	住 所	受 賞 理 由
うしば ひさこ 牛場 寿子 (68 歳)	津市	氏は、平成 17 年に鈴鹿市立白子公民館写真サークルで写真を始めて以来、「津市美術展」市長賞、「三重県展」優秀賞、「二科会写真部展」入選のほか、全日本写真連盟主催の「国際写真サロン」及び「全日本写真展」での入賞など、数多くの受賞歴を有する。 また、平成 24 年には、写真雑誌「フォトコンテスト」の年間 1 位を獲得し、年度賞作家として「牛場寿子の世界」と題する特集が掲載され、一躍脚光を浴びる。 氏の作風は、スナップ写真を得意分野としており、一期一会の出会いの瞬間を見つけ、被写体に対し真正面から向き合う姿勢に特徴があり、写真愛好家から注目されている。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待される。

賞別 文化新人賞 活動分野等 その他分野（木工）

名 前	住 所	受 賞 理 由
おおかた やよい 大形 弥生 (30 歳)	尾鷲市	氏は、デザイン専門学校等で美学、木工技術などを修得した後、平成 21 年に工房「えびすや」を起業し、現在、木工作家として活動している。 氏の作品は、尾鷲市の地場産業である「尾鷲ヒノキ」の間伐材、端材を利用したおもちゃ、アクセサリなどの木工芸品で、制作を通じて、「人が木に触れる」「木の魅力」「環境に優しい創造の喜び」等の機会をつくり、自然環境の大切さを再認識してもらう取組を展開している。 平成 21 年に尾鷲市在住の女性たちで、美し国おこし・三重登録団体「Hinokku(ひのつく)」を結成して代表に就任し、子どもたちに「木の魅力やものづくりの楽しさ、環境を守っていくことの大切さ」の体験をとおして伝えている。 また、平成 27 年に「森林組合おわせ COC 管理グループ」に参加登録し、森林の大切さを理解してもらうための啓発活動にも取り組んでいる。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待される。

賞別 文化新人賞 活動分野等 伝統芸能分野（津軽三味線）

名 前	住 所	受 賞 理 由
こまだ さよ 駒田 早代 (16 歳)	津市	氏は、小学生から津軽三味線を習い始め、平成 21 年に小学生デュオ「たんぽぽ」を結成し、演奏活動を開始するとともに、自ら作曲したオリジナル曲で全国大会に出場するなど、県内外に演奏活動の場を広げている。 平成 21 年に「第 6 回津軽三味線全国大会 in 神戸」（小学生以下の部）で準優勝して以降、数多くの大会で優勝し、平成 27 年には「第 9 回津軽三味線日本一決定戦」において、プロの奏者も参加する「A 級女性の部」で、15 歳で優勝する快挙を果たした。 また、全国大会に出場するかたわら、演奏しながら唄う「弾き唄い」技法を習い、民謡の伴奏、唄い手にあわせて曲をつける難易度の高い唄付けにも挑戦している。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。

賞別 文化新人賞 活動分野等 写真分野（写真）

名 前	住 所	受 賞 理 由
の こ 野瀬 みつ子 (58 歳)	松阪市	氏は、平成 15 年に全日本写真連盟久居支部で写真を始めて以来、「津市美術展」市長賞、全日本写真連盟主催の「国際写真サロン」及び、「全日本女性写真展」において入賞、入選を重ね、平成 27 年には「三重県展」優秀賞、「二科会写真部展」特選など数多くの受賞歴を有する。 氏の活動は、ヨーロッパやタイなど海外にもおよび、人物写真を中心に、写真で第三者に語りかけようとする作者のカメラアイに特徴があり、写真界のホープとして有望視されている。 また、志摩地域の海女や地元松阪市嬉野町の神事や祭事を撮影するなど、県内の多様な歴史的、文化的資源の伝承や情報発信につながる活動を展開している。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待される。

賞別 文化新人賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
ひらの とおる 平野 透 (78 歳)	四日市市	氏は、平成 18 年、67 歳で俳句結社「煌星」に入会して文学活動を始め、平成 18 年に「第 16 回嶋田青峰顕彰俳句大会」志摩市長賞、平成 21 年に「いぐれ忌」特選を受賞、以降、「第 58 回守武祭俳句大会」、「平成 26 年度NHK全国俳句大会」等での入選、入賞など数多くの受賞歴を有する。 また、結社内の吟行・俳句大会等を企画運営の中心となって推進するとともに、平成 25 年に俳人協会三重県支部幹事就任以降、四日市市熟年大学俳句クラブ講師、四日市短詩型文化祭の実行委員・審査委員として、俳句の振興・普及に努めている。 氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。

第15回 三重県文化賞の概況

1 賞の趣旨

三重県の文化振興に貢献し、その活動及び功績が優れた個人・団体を表彰することにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標にもなるよう、顕彰制度として三重県文化賞を設ける。

2 募集期間

平成27年7月17日から9月16日まで

3 受賞候補者の状況

文化大賞	12名	
文化功労賞	9名	
文化奨励賞	14名	
文化新人賞	10名	総数 45名

4 受賞者の状況

(1) 分野別受賞者数

賞区分	分 野										計
	文学	美術	音楽	演劇・ 舞踊	写真	現代 芸術	伝統 芸能	生活 文化	学術	その他	
文化大賞	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
文化功労賞	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3
文化奨励賞	1	2	0	0	1	0	1	0	0	0	5
文化新人賞	1	0	0	0	2	0	1	0	0	1	5
計	2	4	0	0	3	0	4	0	0	1	14

(2) 地域別受賞者数

賞区分	地 域（各地域防災総合事務所・地域活性化局）										計
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	南勢志摩	伊賀	紀北	紀南	県外	
文化大賞	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
文化功労賞	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	3
文化奨励賞	1	0	0	2	1	1	0	0	0	0	5
文化新人賞	0	1	0	2	1	0	0	1	0	0	5
計	1	2	0	5	3	1	1	1	0	0	14

三重県文化賞歴代受賞者（第1回～第15回）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第1回	平成13年度	北村 憲司（児童文学）*	勝美 伊三次（日本舞踊） 保黒 時男（植物生態学調査）	あの津っ子の会（児童文学） 伊勢管弦楽団（交響楽） 伊藤 宏樹（吹奏楽） 落合 花子（詩歌） 川端 守（地域づくり活動）	新井 明子（演劇） 津手づくり絵本の会（児童文学） 坪井 智子（箏曲） 伴 剛一（作曲活動） 東川 和子（川柳） 平田 環（俳句）
第2回	平成14年度	（該当者なし）	亀山絵本と童話の会（児童文学） 坪島 土平（陶芸） 三重ヴォークスボーナ（合唱）	伊勢シンフォニックバンド（吹奏楽） 菅生 三千代（箏曲） 羽場 正一（演劇） 黛 元男（詩歌） 南川 憲生（彫刻）	池田 比早子（ひのきクラフト） 鎌田 美津子（写真） ゴルジ隊（演劇） 阪野 優（マンボ研究） 田中 豊（演劇） 中森 勉（写真） 平賀 節代（俳句） 森田 茂治（詩歌）
第3回	平成15年度	稲垣 克次（彫刻）	川北 佐平治（伝承芸能） 中村 武郎（ギター・マンドリン） 山口 勲（俳句）	金子 聡（環境科学研究） 北住 淳（ピアノ演奏） 近藤 英子（彫刻） 森 一蔵（萬古焼） 山内 玲子（箏曲）	石井 烈（俳句） 佐々木 經子（俳句） 東 勝美（児童文学） Building Bridges （文化資産等の保護） 津軽三味線兄弟ユニット KUNI-KEN（津軽三味線） 三浦 恭子（インド舞踊） 水野 昌光（地域の映画館を 活用した市街地活性化）
第4回	平成16年度	ヴォーカルアンサンブル 《EST》（合唱）	岡村 信也（吹奏楽） 土屋 喜八郎（能楽） 中林 長生（俳句）	笠井 幹夫（オペラ） 木岡 ふみ子（箏、三絃） 佐々木 宏子（ピアノ演奏） 清水 正明（郷土文学者・ 文学作品の発掘、紹介） 谷口 智行（俳句）	阪本 青悠（書） 高崎 一郎（詩） 中山 かほり（吹奏楽） 藤田 智子（箏、十七絃等） 松田 実毅（小説） 三重大学ダンス部（ダンスの創作）
第5回	平成17年度	野口 已織子（日本画）	関宿町並み保存会 （関宿の町並み保存） 田村 美保子（大正琴） 間瀬 昇（評論、小説）	田村 公男（洋画） 東海 かおり（箏、三絃） 福山 良子（俳句） 松嶋 節（小説） 山村 楽女（日本舞踊）	伊勢童話をつくる会“ほほえみ” （童話） 麻植 慶治（雅楽） 奥山 和子（俳句） 後藤 千佳子（筆名：伍東ちか） （現代詩） 津村 美香（フラワーデザイン） 人情集団An-Pon-Tan （バリアフリーミュージカル）
第6回	平成18年度	谷本 光生（伊賀焼）	岡森 章（伊賀焼） 森 浩一（能楽・狂言）	川島 雅樹 （声楽・オペラ・合唱） 水谷 幸勉（工芸美術） 宮村 典子（川柳） 村上 しいこ（童話） 三重オペラ協会（オペラ）	佐藤 千恵（俳句） みえ熊野学研究会 （地域資産研究）
第7回	平成19年度	宮田 正和（俳句）	越知 愛幸子（合唱） 中川 忠峰（根付） 吉居 清雄（堅塩作り）	中山 かほり（吹奏楽） 西田 誠（俳句） 秦 昌弘（郷土作家の研究） 服部 博之（和太鼓） 馬場 浩子（声楽）	アモーレかめやま（大正琴） 梅山 憲三（現代詩） 垣内 美穂（詩・児童文学） 桐生 智晃（吹奏楽） 葛原 郁子（短歌） 現代邦楽集団グループ竹友（邦楽） 比留間 雅弥真天（邦楽）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第8回	平成20年度	小野 雅生（洋画）	稲垣 無得（書） 倉田 しげる（俳句）	伊藤 政美（俳句） 岩崎 孝子（洋画） 津田 親重（日本画） 野村 幸廣（ミュージカル） 山本 翠松（伝統漆工芸）	秋野 信子（詩・小説） 岡本 妙子（詩） 劇団員弁川（演劇） 福田 容子（俳句）
第9回	平成21年度	園田 幸男（吹奏楽）	赤井 重規（能楽） 原 直矢（彫刻） 鍋島 泰（方言の研究）	橋本 輝久（俳句） 三重県吹奏楽連盟（吹奏楽） 田中 厚好（彫刻） 青木 久佳（短歌） 岸 武男（演劇）	山口 道子（版画） 前田 照子（俳句） やまぎり 萌（現代詩） 林 英一（多文化共生の研究） 長岡 むつみ（リコーダー指導） 中川 左和子（短歌）
第10回	平成22年度	長島 幹生（写真）	相賀 泰（神楽） 衣斐 弘行（評論・小説の執筆、郷土作家の顕彰） 川合 俊平（合唱）	小河 柳女（川柳） 津奈乃会（邦楽） 矢田 新男（写真） 矢吹 紫帆 （音楽による地域振興）	小早川 涼（小説） 佐藤 ゆかり（女性史の研究） 多気町劇団白つばき（演劇） 橋倉 久美子（川柳） 橋本 石火（俳句） 堀内 晶（地域の歴史・文化と戦争体験の語り継ぎ） 村田 三郎（地域文化の紹介と観光ボランティアガイド） 村山 砂由美（詩）
第11回	平成23年度	稲葉 祐三 （声楽・合唱・オペラ）	田嶋 禮子（マリンバ） 玉置 千代（児童文学） 野嶋 峰男（木漆工芸）	伊藤 清和（美術の振興） 神田 ひろみ（俳句・評論） 清崎 博（安乗の人形芝居） 山崎 龍芳（伊賀焼） 四日市ジュニア・アンサンブル（合奏等）	越知 ひとみ（音楽の普及） 小津 由実（俳句） 斎宮アカデミー（歴史・文化） 清水 潮（萬古焼） 中西 紀和（陶芸）
第12回	平成24年度	橋本 三重子 （日本画、書道）	伊藤 政美（俳句） 角谷 英明（陶芸） 菅生 和光（吹奏楽、指揮者）	桐生 智晃（吹奏楽） 坂尾 富司（写真） 中村 かおる（箏曲） 西田 真也（陶芸） 三重県陶芸協会 （「焼きもの」の振興）	真山 隼人（浪曲） 志摩市俳句協会（俳句） 手塚 泰子（俳句） 西村 健二（郷土史研究） 堀川 孝子（詩） 村松 とし子（短歌）
第13回	平成25年度	三重フィルハーモニー交響楽団（交響楽）	羽場 正一（演劇） 羽根 功二（合唱） 森 悦彦（作詞・作曲）	小川 匪石（書） 紀の川良子と市民劇団 （演劇を通じた地域振興） 阪本 青悠（書） 達知 和子（短歌） 比留間 雅弥真天（箏・三弦）	岩田 典子（俳句） 服部 真紀子（陶芸） 廣 めぐみ（声楽）
第14回	平成26年度	加藤 子華（書）	谷本 景（伊賀焼） 森 正（陶芸） 脇谷 実千子（児童文学）	尾崎 玄之生（俳句） 武村 豊徳（陶芸） 伴野 節子（箏・三絃） 吉川 光和 （競技かるたの読み手） 吉崎 柳歩（川柳）	伊藤 圭佑（津軽三味線） つげ みさお（児童文学） 西田 昂平（声楽） 和太鼓 凜（和太鼓）
第15回	平成27年度	三代 清水 醉月（陶芸）	加藤 純一（詩吟） 福田 勝（能楽） 松山 好成（組紐）	印藤 幸恵（陶芸） 坂口 緑志（俳句） 田邊 三郎（写真） 中井 智弥（箏曲） 安田 隆亮（絵画）	牛場 寿子（写真） 大形 弥生（木工） 駒田 早代（津軽三味線） 野瀬 みつ子（写真） 平野 透（俳句）